



私たちの「思い」をカタチに ～#みんなで作る舞鶴2040～

2040年に向けて私たちはどのような未来を描き、次の世代へと繋いでいきますか。現在進めている「第7次舞鶴市総合計画」が2027年に最終年度を迎えるにあたり、次の10年、そして2040年を見据えた「新しいまちづくりの指針（次期総合計画）」の策定をスタートしました。今回の計画づくりのテーマは、行政だけで決めるのではなく、市民の皆さんと共に「思い」をカタチにすることです。

未来の舞鶴を一緒に作り上げるための歩みが、今、始まっています。

《企画政策課》



2040年は まちづくりの転換期

2040年、舞鶴市では3人に1人が65歳以上となる時代を迎えます。

労働力の不足や社会保障費の増大、道路・橋・公共施設の一斉更新など、私たちはこれまでの「成長・拡大」を前提としたまちづくりから、大きな転換を求められています。

次期総合計画では「現状の延長」ではなく、理想とする「目指したい姿」を想像し、今の道筋を描くことが重要です。

若手職員による 「庁内ワーキングチーム」の発足

未来を考える第一歩として、市役所職員によるワーキングチームを発足。「未来の舞鶴はどう変化するか」を多角的に分析し、現場の視点から、今の舞鶴が抱える課題を整理しました。

中学生が描く 「未来の舞鶴」

こうした取り組みの中で、白糸中学校の2年生が総合的な学習の時間を活用し、約半年間かけて、自分たちが将来住み続けたいと思う未来の舞鶴を検討してくれました。そして「自分たちが考えた未来への提案を、ぜひ市長に聞いてほしい」と、2月に市長への成果発表会が行われました。

発表会では、人口減少やまちのにぎわいなどの課題をどのような方法で、誰と一緒に解決していきたいのかなどが発表されました。また、課題に対して生徒も自分たちに何ができるのかを考えた提案が行われ、未来の舞鶴を担う若者たちの自由で意欲的な姿が見られました。

発表内容などは、市ホームページに掲載しています。下コードからアクセス可。



議論を重ねる中で「目指すべき未来は、行政だけではなく、市民の皆さんと共に、共有していく必要がある」という結論になりました。

「#みんなで作る舞鶴2040」プロジェクト スタート

そこで、市民の皆さん一人ひとりの考えや意見などを取り入れるため「#みんなで作る舞鶴2040」を立ち上げました。

この取り組みでは、学生など未来の舞鶴を背負う世代にも積極的に参加してもらい、多様な声を反映させるため、SNSなどを活用した手法も取り入れました。また、2040年に向けて、目指したいまちや解決したい課題などに関する意見募集のほか、未来に残したい風景や食などの写真を募集しました。

未来を一緒につくる

「#みんなで作る舞鶴2040」で寄せられた多くの声は、行政だけで取り組めるものばかりではありません。

引き続き、市民と行政が協働してまちづくりに取り組む「みんなで作る舞鶴」の実現に向けた「計画の素案」をまとめ、再び皆さんに公表・検討いただく機会を設けます。

総合計画は、市の骨格であると同時に、私たちの「未来の設計図」でもあります。2040年、舞鶴のまちを歩く私たちが「このまちで暮らしてよかった」と笑い合えるように、これからは、皆さんとともに、一歩ずつ歩みを進めていきます。

これまでの取り組みや皆さんの意見は「見える化」した特設サイトで確認できます。下コードからアクセス可。

